

2020 年度 研修開催報告

教育の質保証を実現するために、大学教員の職能開発（FD）の更なる実質化・高度化が求められています。ここでは、東京都立大学FD委員会の主催による、本学の教育理念の共有と着任後の円滑なコミュニケーションを図るための新任教員FD研修、アクティブ・ラーニングの具体的な手法や実践例等を共有するための教育力向上FDセミナー、TAの役割に関する理解や教育補助者としてのスキルアップ、情報収集を目的としたTA研修・スキルアップセミナーの開催結果について報告します。

<新任教員FD研修>

2020年4月3日 14:00～15:35 及び 2020年10月4日 9:10～12:30

1. 趣旨

この研修は、新任教員を対象に着任後の円滑な教育・研究活動へと導くために開催している。研修の目的は以下のとおりである。

- 東京都立大学のカリキュラムの特色や教育方針等を理解する。
- 授業デザイン・実践のための基礎知識・スキルを習得する。
- 同僚とのコミュニケーションを図り、着任後の円滑な教育・研究活動につなげる。

また、10月の研修は二部形式で実施し、第二部「オンライン授業の学習デザイン」については、教育力向上FDセミナーとして同時開催し、新任教員だけでなく一般の教員も参加した。

2. 概要

[開催日時・場所・参加人数]

2020年4月3日 南大沢キャンパス

参加人数：30名

[主なプログラム]

- TMU VISION 2030 等について
(教育担当副学長 山下 英明)
- 東京都立大学の概要と本学の教育が目指す方向性
(大学教育センター長 横田 佳之)
- 東京都立大学のFD・教学IR活動の紹介について
(大学教育センター 近藤 伸彦 准教授)
- eラーニングシステム kibaco の紹介について
(学術情報基盤センター 藤吉 正明 准教授)

[開催日時・実施方法・参加人数]

2020年10月4日 Zoomによるオンライン開催

参加人数：11名

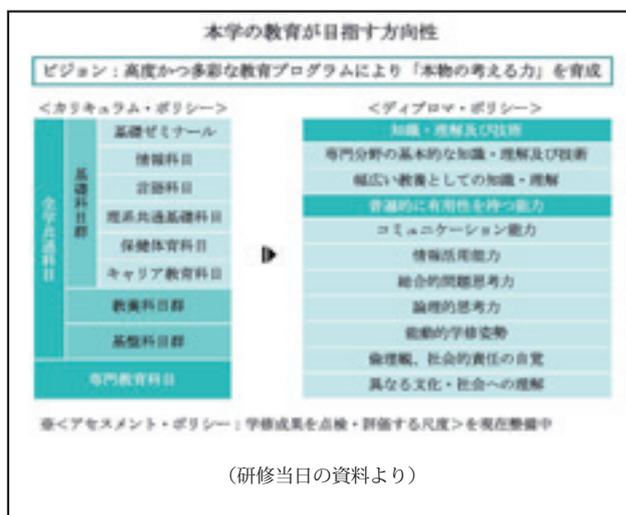
[主なプログラム]

【第一部】

- TMU VISION 2030 等について
(教育担当副学長 山下 英明)
- 東京都立大学の概要と本学の教育が目指す方向性
(大学教育センター長 横田 佳之)
- 東京都立大学のオンライン授業に係る Web 会議ツール (Zoom) の紹介について
(大学教育センター 近藤 伸彦 准教授)
- eラーニングシステム kibaco の紹介について
(大学教育センター 岡田 有司 准教授)

【第二部】

- オンライン授業における学習デザイン
(大学教育センター 松田 岳士 教授)



<教育力向上FDセミナー>

2020年10月5日、2021年3月15日（全2回）

1. 趣旨

2017年度から2019年度まで教育改革推進事業（学長指定課題）の取組みとして、大学教育センターとFD委員会の共催で、アクティブ・ラーニングの具体的な手法や授業設計、実践例等を共有するための少人数によるワークショップ形式のセミナーを開催した。

2020年度からは上記セミナーの後継として、FD委員会の主催で、継続的にアクティブ・ラーニング等を推進するための教育力向上FDセミナーを実施している。

2. 概要

〔第1回セミナー〕（参加者109名）

2020年10月5日 Zoomによるオンライン開催

テーマ：オンライン授業における学習デザイン

（講師：大学教育センター 松田 岳士 教授）

新型コロナウイルス感染症の影響で、本学では2020年の後期もオンライン授業が中心になることが見込まれていた。

第1回教育力向上FDセミナーでは、オンライン授業設計のポイントとして、学生の活動自体を設計する「学習デザイン」の観点から、対面授業との差を踏まえた注意点、学生へのフィードバックの方法などの紹介を行った。

なお、第2回教育力向上FDセミナーは、「主体的・対話的で深い学びを促すための学習デザイン」をテーマに2021年3月15日に開催した。

〔参加者へのアンケート結果抜粋 /5段階評価〕

| 項目 | とても思う (評価:5) | どちらかといえば 思う (評価:4) | どちらかといえば 思わない (評価:3) | どちらかといえば 思わない (評価:2) | 全くそうは 思わない (評価:1) | 評価 平均値 |
|---------------------------------|-----------------|--------------------------|----------------------------|----------------------------|-------------------------|-----------|
| セミナー全体の長さは適当であった | 29 | 20 | 2 | 1 | 0 | 4.48 |
| 期待していたおりの内容であった | 35 | 13 | 4 | 0 | 0 | 4.60 |
| セミナーの内容は、授業改善に繋がるものでしたか(教員のみ回答) | 35 | 13 | 4 | 0 | 0 | 4.60 |

東京都立大学
主催：東京都立大学FD委員会

教育力向上FDセミナー
オンライン授業における
学習デザイン

新型コロナウイルス感染症の影響で、本学では2020年後期以降もオンライン授業が中心になる予定です。
本セミナーでは、オンライン授業設計のポイントとして、学生の活動自体を設計する「学習デザイン」の観点から、対面授業との差をふまえた注意点、学生へのフィードバックの方法などを紹介します。

講師：大学教育センター 松田 岳士 教授

開催日時 2020年
10月5日(月) 10:50-12:30

本学の教職員(非常勤含む)の皆様がご覧いただけます
※Zoomによるオンライン開催、要事前申込

申込方法 授業日までに、以下リンクの申込みフォームより申し込み、入力されたメールアドレス宛にメールが届きます。
https://forms.gle/9888888888888888

お問い合わせ先 大学教育センター 広報・戸課
E-mail: kyomu-tokai@jpu.ac.jp

学習デザインとは

学習活動自体をデザインする方法・プロセス 具体的には
学習活動の種類、順序、必要な時間等を考慮して
進捗確認・介入のポイントを定める

- 学習活動の種類は、すでに標準化され、設計ツールも使われる
- 学習者はどのような順番で、どのような学習をしていくのかに着目
- 成功したシーケンス(順序)、スケジュールを参考モデルにすることもできる

3つのアプローチ

主に3種類の学習支援方法がある

- 授業設計の改善
- 新しい技術の導入
- 学習支援者による支援

■それぞれの方法にメリット・デメリットがある
→上手に組み合わせるべき

< T A 初任者研修 >

2020年6月18日 16:30～17:30

1. 趣旨

東京都立大学では、2015年度にTA（ティーチング・アシスタント）制度の改正及び拡充を図り、TAとして教育に携わる大学院生の増加を目指している。また、毎年、初めてTAとなる大学院生に向けて、TAの役割や心得を教授し、その効果的な活用を図っている。

2. 概要

[開催日時・実施方法・参加人数]

- ・日時 2020年6月18日 16:30～17:30
- ・実施方法 Zoomによるオンライン開催
- ・参加人数 110名

[プログラム]

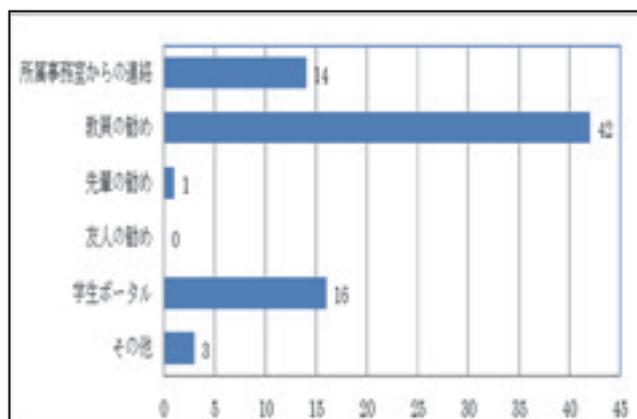
- (1) TAの役割と心得
(大学教育センター 岡田 有司 准教授)
- (2) Zoomとkibacoの使い方
(大学教育センター 岡田 有司 准教授)
- (3) 事務手続きについて
(事務局)

3. 研修の満足度

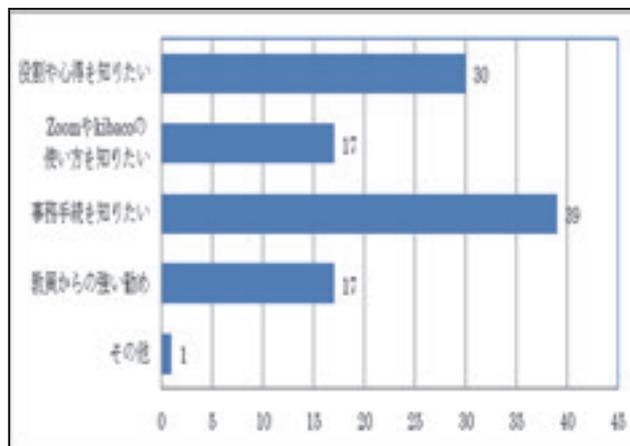
参加者110名のうち66名からアンケートの回答を得た。研修を通じて心得や役割について理解を深めることができたと感じている参加者が98%を占めた。

4. 参加者へのアンケート結果抜粋

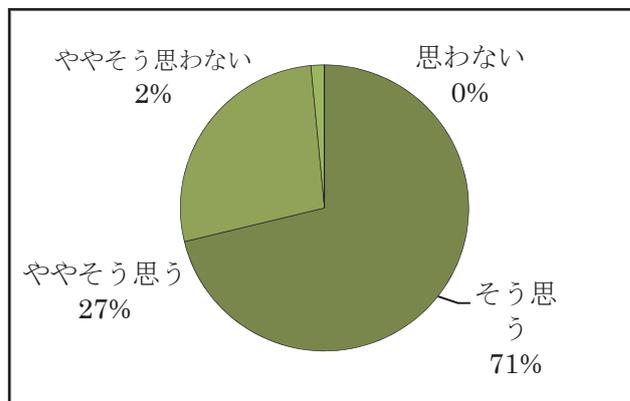
○研修を何で知ったか



○参加のきっかけ



○心得や役割について理解を深めることができたと感じているか



5 参加者の感想（一部抜粋・要約）

- ・TA業務に従事する上でしておくべき基礎的事項を概ね知ることができた。
- ・TAを務める上でのZoomやkibacoの活用方法を知ることができた。
- ・事務手続きがよくわかった
- ・例年は授業開始前に開催しているのかもしれないが、今回の内容をやるのであれば授業開始前に開催した方が、効果が高いと思う。

<TAスキルアップセッション>

2020年11月9日 13:30～14:30

1. 趣旨

2020年度の後期に実施されるオンライン授業においては、STA及びTAにも「オンライン上におけるグループワークのファシリテーションスキル」が必要となるため、その習得及び訓練を目的として開催した。

2. 概要

[開催日時・実施方法・参加人数]

- ・日時 2020年11月9日13:30～14:30
- ・実施方法 Zoomによるオンライン開催
- ・参加人数 2名

[プログラム]

- (1) ファシリテーションに係る知識を学ぶ
- (2) グループワーク※を行い、ファシリテーションをオンライン上(ブレイクアウト機能)で実践
- (3) まとめ
(大学教育センター 松田 岳士 教授)

※職員が学生役として2つのグループを作り、実際のオンライン授業でのグループワークで発生し得る問題を再現した。セミナー参加者はそれぞれのブレイクアウトルーム上のグループワークに参加し、ファシリテーションの試行錯誤を実践する。

3. 参加者の感想

- もう少し研修時間を長めにして、TAについての基礎的な学習、ファシリテーション実習の振り返りの内容を充実してほしいと感じました。
- 内容は大変参考になりましたが、時間が短かったように思います。

4. セミナー資料

オンラインGPディスカッションの問題

※有意義な話し合いが困難であることが多い 例えば

- ✓学生同士で遠慮し合って自主的に話し合いが進まない
- ✓意見がたくさん出てもまとまらない(話が発散して結論が出ない)
- ✓一部の学生が積極的に参加しない といったケース(弊)

解決の前提として...

- 教員が()テーマを与えず
- グループ内で役割分担が割り当て
- GPメンバーが()していない

これ(主に授業の設計)以外に「ファシリテーション」が必要

■ ファシリテーション・チェックリスト

グループディスカッションではどのような状況を感じるための働きかけができますか?

- 誰かがアイデアを出すと周囲が批判的になる
- 議論をまとめて「書く」活動がなく、「空中戦」になっている(発言内容を記録したり、オンラインホワイトボードなどで共有したりする活動がない)
- 十分議論しないで、すぐに結論を出そうとする
- 声の大きい人、性格の強い人、年上の人の意見が押し通される
- 特定の人だけがたくさん話している
- 話し合いの目的がはっきりしていないと感じる
- 話し合いを司会進行する人がいない
- 連絡・事実確認が中心になっている
- 他の人の利益や幸せを考えた発言がない
- ディスカッションにならず、アイデアが出ない
- ほとんど何もしゃべらない人がいる
- 話し合いを進めるうえで、自分自身をあまり重要でないと思って遠慮したり、卑下したりしている人がいる
- 話し合いのとき、別のことをしている人がいる
- 他のメンバーを信頼できていない人がいる
- 本音で話さず、ただ他の人に合わせている人や投げやりな人がいる
- 誰もディスカッションの終了時間を気にせず、話が拡散している

(©大石 2008 をオンライングループディスカッションに合わせて改良)